

2017年度第9回執行理事会議事録

期 日：2018年4月7日（土）10:30～12:30

場 所：北とびあ901会議室

出席者：渡部会長 松田副会長 齋藤常務理事 安藤 緒方 岡田 小宮 杉田 辻森 内藤 中澤 西 平田 向山理事会議長 佐々木副議長（事務局）橋辺
欠席者（委任状提出あり）：坂口 田村 廣木 山田

*定足数（12、委任状含む）に対し、出席者13名、委任状4名、合計17名の出席。

*前回議事録を承認

I 審議事項

1. 地質学雑誌のあり方についてのアンケートについて（タスクフォース委員会）

アンケートの実施は承認したが、趣旨文や書式をさらに検討して実施するよう、意見が多数出た。したがって、現時点では理事会の審議事項とはせず、報告の中での紹介に留めることとした。

2. 理事会議事確認

向山議長および佐々木副議長とともに議事の確認をした。

II 報告事項

1. 全体的報告

1) JGCの要請により調査運営部会委員として地質学会より利光誠一会員を推薦。このほか、公募枠へ4名を推薦したが、先方の連絡が遅く期日後になったこと、ジオパークについてより経験のある方を望む、ということで受け入れられなかった。

2) 地球惑星科学分野新規大型研究計画の創出について、学会から2件のマスタープランを応募

・「中央構造線掘削」代表者 高木秀雄・宮崎一博・斎藤 眞・大橋聖和

・「第5期科学技術基本計画」の目指す基本理念「知の資産の持続的創出」に基づき、全地球試料（地球科学系岩石・化石試料と生物科学系剥製・標本試料）のアーカイブ化とキュレーション施設の構築 代表者 小宮 剛

・ヒアリングにおいて、全地球試料のアーカイブ化とキュレーションについては、やや期待感のある反応であったが、広範な分野の協力体制も必要であることから、今後も動向をサーチしながら対応していく。

3) 次期高等学校学習指導要領案に対するパブリックコメントについて

廣木理事の原案をメール審議のうえ提出した。また、同様に平成30年度大学入試センター試験の地学科目に関する意見書を提出した。（HPに掲載）

2. 運営財政部会：総務委員会（緒方・西）
<共催・後援依頼、他団体の募集等>

1) 日本原子力学会よりシンポジウム「断層リスクに向き合う原子力安全のアプローチ」

(5/31開催)の後援依頼を承認。

2) ジオ神奈川（代表 蟹江康光）より、地質の日のイベント「城ヶ島の高潮・大正関東地震津波・地盤隆起」の後援依頼を承認。

3) 全地連および経済調査会主催の「設計業務等標準積算基準書の解説」説明会（地質編）に対する後援依頼を承認。

4) 藤原科学財団より藤原セミナーの募集：2019/1-2020/12に開催され、自然科学の分野で基礎的なテーマのものとし、1件1200万円以内2件、応募申請〆切7/31

5) 山田科学財団より、国際集会開催(2021年度開催分)助成、規模150名以内、助成金800万円以内、募集期間2018/4/1～2019/2/22

6) 学術振興会より、「育志賞」受賞候補者の推薦依頼、大学院博士課程の学生、34歳未満。受付6/4-8、17:00まで。

7) 阿蘇学会（理事長 谷口功）設立記念フォーラム（4/14）への招待→松田副会長が出席

8) 新潟大学学術情報部旭町学術資料展示館より、2017年7月の後援事業の礼状

9) 資源素材学会より新任会長（樋田直行氏）・副会長（尾原祐三氏、月橋文孝氏）の挨拶状

10) ダイヤコンサルタント（株）新役員体制のご挨拶状、社長（野口泰彦氏変わらず）

11) 千葉大環境リモートセンシング研究センター長の交代ご挨拶（安岡善文氏→久世宏明氏）

<会員>

1. 今月の入会者（15名）

正会員（4名）：林信太郎、本間達朗、加藤悠爾、浜田康史

正（院生割引）会員（10名）：近藤美左紀、加藤大地、中西 諒、松原克弥、平井康裕、桑野太輔、清水拓貴、向里祐哉、張 天逸、丸茂恭徳

2. 今月の退会者

2017年度末退会者（85名）、除籍者（78名）

3. 逝去者 なし

4. 2018年3月末日会員数

賛助：28、名誉：55、正会員：3491（正会員：3304、正（院割）会員：172、正（学部割）会員：15）合計 3574（昨年比 -69）

5. 2018年度永年（50年）会員：赤羽貞幸 赤松守雄 磯部一洋 井上大栄 江藤哲人 岡田篤正 岡田賢樹 奥村公男 小池春夫* 小井戸由光 坂本隆彦 柴田次夫 嶋本利彦 玉生志郎 西田民雄 牧野泰彦 町田瑞男 村松敏雄* 山内靖喜* 山岸勝治 山野井徹 以上21名 *リストアップから漏れていた方（1～5年遅れ）

<会計>

・2018年度予算案：125周年の事業があるので、数字的には昨年度予算より収支ともに約400万円ほど上回っている。収入は引当金の取り崩しによるところが大きい。

・地質情報展の科研費が今年度は不採択となった。そのためとりえず普及事業費で

賄えるように予算措置をした。

3. 広報部会：広報委員会（坂口・小宮・内藤）
特になし

4. 学術研究部会（岡田・山田）
（1）行事委員会（岡田）
・札幌大会関係および125周年記念シンポジウムについて
・125周年記念シンポジウム準備状況の報告：講演予定者への招致状況を確認し、シンポジウム世話人を検討中。
（2）国際交流委員会（井龍）
・125周年記念シンポジウムの講演者については交流学会及びキーパーソンとの間で交渉を進めている。
（3）JIS、標準担当（中澤）

5. 編集出版部会（中澤・田村・小宮）
（1）地質学雑誌編集委員会（山路編集委員長、中澤担当）
1) 編集状況報告（4月5日現在）
・2018年投稿論文：39編 [内訳] 総説10（和文10）・論説16（和文16）・ノート1（和文）・報告6（和文5、英文1）・巡検案内6
・査読中：58、受理済み：22（うち特集号9）
・編集中の125周年特集号以外の特集号（順

調に編集作業中）

①「富山トラフと周辺部の堆積作用と後背テクトニクス」世話人：高野 修ほか

②「三次元地質モデル研究の新展開：その2」世話人：木村克己ほか
・124巻3月号（通常号）：総説1、論説2、報告1、講座1（75ページ、4/2発送）
・124巻4月号（125特集号）：「水蒸気噴火の地質学的研究の進展」約80ページ、校正中

2) 125周年記念特集号状況（掲載予定一覧、年内124巻中に完結を前提として編集）

（2）アイランドアーク編集委員会（田村）
1) 編集・特集号・投稿状況等の報告書を確認。
（3）企画出版委員会（小宮）
・子どもゆめ基金助成、WEB教材の開発終了と公開について：3/30に実績報告書提出、Websiteが閲覧可能となった。今後（～3年）の普及活動方針および内容の更新について確認した。小宮理事によるJpGUでのポスター発表で普及宣伝を予定。

6. 社会貢献部会（平田・杉田・廣木・辻森）
・2018年「地質の日」記念・日本地質学会125周年記念事業：街中ジオ散歩 in

Kawasaki「多摩丘陵の100万年を歩く」徒歩見学会 募集・準備状況報告

7. 地質技術者教育委員会（代理天野）
・平成29年度「土質・地質技術者生涯学習協議会（CPD協議会）」（3/8開催）に出席。2018年度CPD会費について、6万円を8万円に値上げすることのこと。

8. ジオパーク支援委員会（平田）
・5/19（土）ミニシンポジウム「日本地質学会のジオパークへの学術的貢献」を開催することとした。札幌大会でもレギュラーセッション開催予定。

9. 地学オリンピック支援委員会（平田）
・2018年度国際地学オリンピック大会（タイ）への準備状況報告

10. 県の石支援委員会（辻森）
・編集進捗状況とくになし。努力中。

以上

2018年5月19日
一般社団法人日本地質学会執行理事会
会長（代表理事）渡部芳夫
署名人 執行理事 斎藤 眞